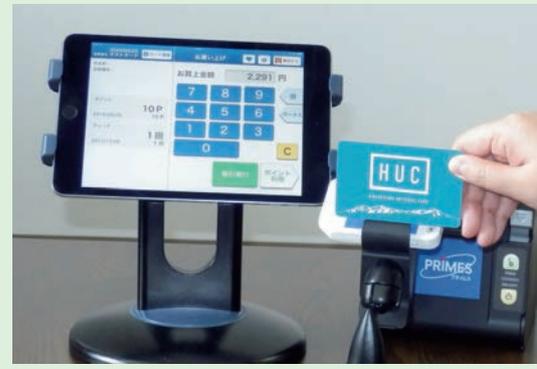


ひがしかわユニバーサルカード商店街 (東川町商工会)

北海道上川郡東川町

「ひがしかわユニバーサルカード」 全業種対象で複数プランを提供



取組の背景

背景の異なる事業者達と 行政の連携が課題

東川町商工会は、全国の地方商店街と同様、大規模ショッピングモールやインターネット販売との価格競争・差別化を課題として抱えており、大規模な宣伝や投資等を行いにくい状況にあった。また、比較的高齢の事業者が多い家具製造業等は、インターネット等を用いた効果的な情報発信・販路拡大を行うことが難しい。長年続く店舗において、後継者問題や施設の老朽化等も今後大きな課題となると予想されていた。

町内には、商店街地区以外にも店舗が点在し、業種・経営者の年齢・背景（IUターンや移住者等を含む）も異なる小規模事業者が多い商工業において、各個店同士・また行政の取組との相乗効果を実現できていないことが大きな課題となっていた。

そのような状況の中で、各産業と行政は連携し、来訪者に「東川町ならではの」価値提供を行い、滞在時間・町内消費を増やしていくことを目指していた。また一方で、行政・商工会事務局では商品券・イベント運営の業務生産性向上・環境に配慮したペーパーレス化を課題として認識していた。



商店街の様子



課題であったペーパーレス化

取組の内容

革新的なアイデアで 1年以内に利用者1万人超

商店街や町の抱える課題を解決するため、利用が鈍化していた従来のポイントカードを廃止し、次世代ポイントカードの導入によって「東川らしさ」と「未来のまちづくり」の実現を目指すこととなった。

アンケートやワークショップによって求める機能・東

川らしさ等を集約しながら、行政と事業者で町全体の価値を高めるための話し合いを重ねた。その話し合いの中で、町中どこでも使えるように加盟店数を最大化することが重要であるという指針が導き出された。その結果、買い物だけでなく、建設会社等の成約や金融機関来店等の全業種で活用できるポイントとすることや、月会費無料で換算率の低いエコノミープラン等をはじめとして、月額固定費と換算率のプランを複数用意し、各事業者のニーズに合わせて選択できるようにするアイデアが生まれた。

それらのアイデアをもとに、「ひがしかわユニバーサルカード（HUC）」を導入した結果、導入1年以内で町民の過半数を含む1万人が利用する地域カードに成長した。従来の4倍である約120事業者が加盟し、カード利用者も過半数の町民・近隣自治体の人々に加え、外国人日本語留学生にも定着。以前のポイントカードに比べ、初年度で約7倍のポイントが発行されている。

その他の取組として、行政・企業・地域住民が起業家を応援するイベント『地域クラウド交流会』を3回にわたり実施。累計参加者は約400人に到達し、事業プレゼンを行った合計15名の起業家のうち、半数以上が出店・新規事業を実現、あるいは具体的な準備をしている。更に起業家応援のためのクラウドファンディングには本ポイントカードが利用され、町内消費と起業支援の両立が実現している。



ポイントカード導入事業ワークショップ



地域クラウド交流会の様子

取組の成果

通行量の増加から見る 取組の成果

町内中心部に位置し、かつ多くの町内外の来街者が利用する道の駅において、町内の賑わいを計測する歩

行者通行量を毎年同時期に実施している。次世代ポイントカード導入による顧客誘引・新規顧客の獲得と町内外の人々による町内回遊増加を期待し、導入前は毎年4%増加を見込んでいたが、この取組前と取組後で通行量は約9%増加し、期待を上回る効果があった。

また、外国人留学生の増加によって、生活支援のための商品券が膨大な量となり、その発行・管理が大きな課題であったが、ポイントカードに移管したことで効率化とペーパーレス化も実現した。健康診断受診ポイントや、高齢者交流施設における来館ポイントにより、町民の健康向上や見守り効果も見込まれる。



イベントの様子

実施体制

本事業は事業開始後、財務的健全性を担保されるまで、独立組織によらず東川町商工会が主体で運営する。事業の方向性・新規加盟店促進・意見交換会の実施等をカード会が行い、加盟店支援・イベント実施・ポイント精算等の日常業務を事務局が行う体制である。

加盟事業者との情報共有は商工会従来の連絡手段に加え、フェイスブックページ・ポイントカード端末を利用したメッセージ機能も活用し、利用者向けには行政と連携し町報・折り込み等を随時行っている。また道内のみならず、全国の自治体の視察・研修を通じ、事業紹介や意見交換を行っている。

今後は「地方版IoT推進ラボ」の仕組みを活用した専門家支援を受けながら、今後の経営戦略策定とビッグデータ分析を行う予定である。

キーパーソンからのコメント

30年先の未来へ デジタルとアナログで地域をつなぐ

東川町は30年前に「写真の町」を宣言、文化によるまちづくりを進めてきました。

同じ頃、商工会では「写真映りの良い町」「東川らしさ」を追求し、青年部が手作りで木彫り看板を作成、今では約100基が現在の東川町の町並みを彩っています。木彫り看板開始から30年。カード事業を通じ、町に関わるすべての人々と一緒に未来を創って行きます。

多様化と地域のつながり、そして技術の進化。買い物だけでなく、イベント・寄付などを通じ、みんなが日々の暮らしの中で未来のまちづくりができれば。100以上の事業者と行政施設が連携し、町民の8割以上が持つHUC。昔ながらの商店街の賑わいとIoT技術で、東川に関わるすべての人がつながるプラットフォームを実現したいと思います。



東川町商工会
会長
小岩 昭市

商店街の概要

東川町商工会は北海道のほぼ中央に位置する、人口8千人の東川町で1960年に設立。東には北海道最高峰旭岳、その麓には2つの温泉郷があり、広大な自然と田園景観に恵まれている。西には北海道第二の都市、旭川市があり、更に旭川空港から車で10分とアクセスも良く、観光客が多く訪れる美瑛町や富良野市にも隣接している。

長年営業の飲食店・日用品店に加え、近年IUターンや移住者によるカフェやセレクトショップが町内各地で店を営んでいる。木工業は日本三大家具の一つである旭川家具の約半数が東川町に事業所を構えている。観光は前述の旭岳と2つの温泉郷、町内スキー場、カフェやセレクトショップを訪れる人々で賑わう。

- 所在地 北海道上川郡東川町
- 人口 約8千人(上川郡東川町)
- 電話/ 0166-82-2750
- FAX/ 0166-82-2182

- URL <http://www.shokokai.or.jp/01/higashikawa/>
- 会員数 185名
- 店舗数 238店舗(小売業22店、飲食業31店、サービス業50店、金融業1店、その他134店)

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 主婦、外国人留学生/30歳代、70歳代以上